

恒例の来年正月「七福神」詣でのご案内

江戸端唄に・・・

「色の黒いは大黒天よ 長い頭巾冠むつて老楽姿のお爺さん 誰じゃ誰じゃ言わずと知れし寿老神 顔の長いは福祿寿 布袋は土仏 その中に 美しいのは弁財天女と褒めたれば そこで毘沙門腹を立て



て なぜ褒めた・・・七福神のその中で 弁天ひとりなぜ褒めた というのも野暮かいな 笑うかどには福来る。」(浮かれ草)

さて、干支は未年、思い切って東京で最も変わった六本木、麻布と「港七福神」に決めました。ところが、高層ビルに囲まれこの「七福神さま」は消滅寸前。今度はこちらが「七福神様」を励まそうと言う魂胆です。名付けて「港七福神探検隊」。

「ビルに隠れた七福神探検隊」のスタートです

- ◆「お参り日」 平成15年1月5日(月)
- ◆集合場所 大江戸線六本木駅7, 8番出口・ミッドタウン方面改札口。練馬方面から最後尾(改札口を出ないでお待ち下さい・旗立てます)目の前の階段を上がると六本木交差点。
- ◆集合時間 1月5日午前10時
- ◆「探検隊」出発 午前10時10分
- ◆「探検」順序。別図をプリントしてお持ちください。

天祖神社(福祿寿)～六本木交差点左折～久国神社(布袋尊)～櫻田神社

(寿老神)進行方向左六本木ヒルズ・中国大使館前・愛育病院前左折(交番裏公園内にトイレあり)～氷川神社(毘沙門天)～大法寺(大黒天)休憩・甘酒を戴く・トイレあり～十番稻荷神社(宝船)・十番繁華街～赤羽橋駅・左折～宝珠院(弁財天)～

熊野神社(恵比寿尊)

- ◆所用時間 概ね3時間。(2万歩弱)

◆**解散場所**は、「東京タワー」のほぼ真下で、道を渡れば芝増上寺境内に入れます。都営大江戸線「大門駅」へは徒歩5分。JR浜松町へは徒歩15分。精進落としは、大門付近で検討中。決まり次第皆様にお知らせします。

神様は何処に消えたか！「探検開始です」

「港七福神」は東京の新しい高層ビル群に囲まれています。お台場などの湾岸地域と違って、本来なら江戸のお面影を残す地域です。

しかし、その変わりようはあつけにとられるばかりです。後かたもありませんが、例えば皆さんが集合する東京ミッドタウンは、旧陸軍の歩兵第一連隊跡。あの2・26事件で首相官邸を襲撃した主力部隊はここから出撃しました。近衛連隊も近い。若手将校が密談を凝らした「龍土軒」も昭和30年代までであったはず。

乃木神社の少し手前に目指す「天祖神社」(福祿寿)付近は大工事中。天祖神社は元より、社務所もプレハブ。



「福祿寿さまは？」と聞くと、「今は、手前のお稲荷様と一緒に祀られています。「お正月は三が日だけ仮本殿にお出ましになります。

「その後は？」と言うと「またお稲荷様と一緒にです」。

私たちの行く正月5日は「お稲荷様の祠」においてになるらしい。

「ご朱印帳は判を押しますからご安心を」

この一帯は正月も「工事中」なのかもしれません。

ともかく、今年の七福神様は、一生懸命探さないと見つかりません。これも東京の大変化を示しているんでしょう。

七難即滅七福即生

一説によると、徳川家康が、天海和尚から「仁王経」のこの一節を教えられたとか。その「七福」は、寿命、有徳、人望、清廉、愛嬌、威光、大量だと言います。それを七福神にあてはめて、狩野派の絵師に描かせてことが始まりだと言います。

現代の弁天様はどんなお姿か



さて、現代の「弁天様」をインターネットで探しますと、左のイラストが突然出てきました。「これはしたり」。

時代によって千差万別。太田蜀山人の「俗耳鼓吸」では、弁天様を囃す唄に

「そよそよ風に誘われて 脛(はぎ)も踵わに寝乱れて ヨイヨイヨイ ヤサ タットサ」

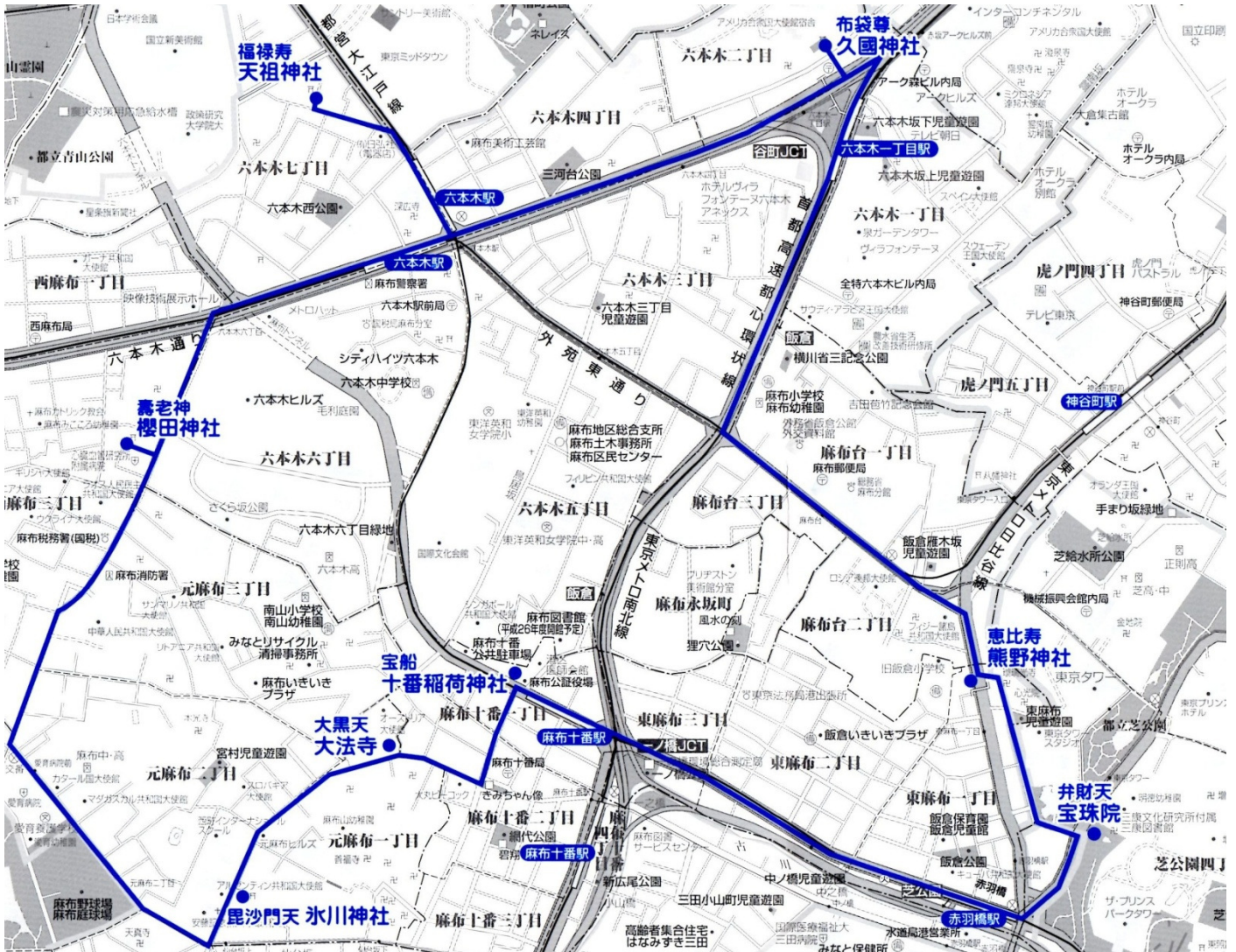
だそうです。初詣の小唄では

「年増盛りの初詣 忍ぶ頭巾のついみしられて 地味な小袖の隠し裏
こぼれ松葉の幾千代も 離れぬ仲の楽しみは 太平楽の世を送る
おおよいことの 良いことの」

さて、私たちも

「初詣の戻り道 足も千鳥の酒機嫌 竹にぶらり ぶ

らり」



工事中の「天祖神社」(福祿寿)を後にして、一段の「御利益」を願って「久国神社」(布袋様)へ。この道は集合場所から坂を下ります。六本木は昔は陸軍の町。ミッドタウンは旧歩兵連隊跡。坂を下って赤坂へ。約10分で「久国神社」へ。首都高の横丁にありました。大田道灌の勧請で正面の扁額は勝海舟の筆。



ここで回れ右。今来た道を逆行して、正面に六本木ヒルズを見据えて歩きます。途中に「俳優座」の名残を眺めて再び六本木交差点に。ここは東京でも大変化を遂げたところ。道を左にとれば「狸穴(まみあな)坂、ロシア大使館。



六本木ヒルズの丁度裏側にささやかな「櫻田神社」(寿老神)を見つけました。

この辺りの神社では最も古いお宮です。治承4年(1180)。源頼朝公の勸進で建立された。元は現在の「霞が関」にあったのですが、徳川家康が江戸に入府の際にここに移された。「寿老神」様は境内の「福寿稲荷社」に祀られました。

「櫻田」の名前だけが、江戸城に残り「桜田門」として歴史に刻まれています。

ここから坂を下って、「氷川神社」(毘沙門天)へ。江戸七氷川のひとつで、丁度ならかな丘を感じさせる街を歩きます。途中「中国大使館」もあって、警察官の警備も厳重です。

さらに下って、丁度江戸の高台を歩いているような所に「氷川神社」(毘沙門天)。道に添って数多くの大使館があります。カタール、アルゼンチン、マダガスカル、スロバキア、など。国際色が豊か。その中にある「氷川神社」は元はもう少し離れた麻布「一本松」付近にあったとか。ここからまた下って「大法寺」へ。



ここで小休止・トイレもあります。大法寺(大黒天)

「大法寺」(大黒天)は、栄久山大法寺と号して、開山は慶長2年。江戸時代は「赤門寺」と呼ばれたがその門は今はない。ここに奉安されている「大黒様」は、伝経大師の作と伝えられています。「探検隊」はここでひと休み。お寺の大黒さんから「甘茶」のご接待をして頂くことになっています。

「暗闇坂」を過ぎれば麻布。道の真ん中に「きみちゃん像」。野口雨情の「赤い靴」が作詞された場所だとか。付近は麻布十番の「盛り場」。おせんべい屋さん、豆腐屋さん、お蕎麦屋さんとお蕎麦屋さんと老舗が並んで賑わっています。

◆参加申し込み締め切り 12月25日

申し込み先 増田富一「歴史ウォーキング部会幹事」

アドレス: tomwaka-70@kpe.biglobe.ne.jp

Tel: 携帯090-9204-9253

事務局 FAX: 03-3994-8219

尚、解散地 大門駅付近(場所目下検討中)でのウォーキング部新年会の参加有無も御知らせ下さい

◆会長代理 関博之

「歴史ウォーキング」部長 石川正利・幹事 加藤順一増田富一 八巻孝夫 仲山典美

◆同様の募集要項 練稲会ホームページにも掲載します。

麻布十番のにぎわいはこのところ一段と華やかになりました。新しい「盛り場」が誕生しています。正面の「十番稲荷神社」は、七福神様にプラスして「宝船」の巡拝所になっています。境内には宝船の石造もあります。



「七福神詣で」も終わりに近づきました。

お疲れの方はここ(麻布十番駅)から地下鉄で「赤羽橋」まで先回りもできます。歩いても15分。赤羽橋駅から「芝公園」に入ってすぐに「宝珠院」(弁天様)。緑が濃くなって、目の前に東京タワーが見えます。「法珠院」は港区指定文化財の閻魔大王が安置されています。弁天様と閻魔様で、願掛け詣りも粋なもの。



芝公園内を歩いて5分。最後の「熊野神社」(恵比寿様)でお終い。右側に芝の増上寺本堂があり、三門をくぐれば「大門」。(大江戸線駅) ご苦労さまでした。

- ◆参加申し込みは12月25日まで。別記の増田富一幹事アドレスでお知らせください。
- ◆想定時間約3時間。ルートを地図で確かめて「地下鉄スキップ」もご自由に。
- ◆精進落とし・芝大門(大江戸線駅)近くの居酒屋を物色中です。後刻お知らせします。